2026 年第 42 週の報告です。
今週は、**インフルエンザ**の報告数が少し減少し、注意報レベルではなくなりました。保健所別でも山城北と南丹で注意報発生基準値を下回りましたが、逆に山城南では報告が増加し注意報レベルになっています。山城北の**咽頭結膜熱**は今週も警報レベル、**水痘**が山城南で警報レベルとなりました。
全数把握対象疾患は、**結核**が 3 件、**腸管出血性大腸菌感染症**と**梅毒**がそれぞれ 4 件、**日本紅斑熱**・**レジオネラ症**と**クロイツフェルト・ヤコブ病**がそれぞれ 1 件、**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**と**侵襲性肺炎球菌感染症**がそれぞれ 2 件の報告がありました。

日本紅斑熱が 3 週続けて報告されています。日本紅斑熱は、ダニ媒介感染症の一つで、細菌の一種であるリケッチア・ジャポニカをもつマダニに刺されることで感染し発症します。府内では、毎年 2～8 例の報告がありましたが、2025 年は年間 12 例に増加、今年はそれを上回るペース（42 週時点で 11 例）で報告が挙がっています。媒介ダニの活動が活発化する 4 月から 11 月に発生がみられます。潜伏期は 2～8 日で、頭痛、発熱、倦怠感を伴います。発熱、発疹、刺し口が主な徴候です。**テトラサイクリン系の抗菌薬が有効であるとされていますが、未治療では重症化し死に至ることもあります。**国内で承認されたワクチンはありません。予防にはダニに刺されないようにすることが重要です。草むらや藪等、マダニが多く生息する場所に入る場合には、肌の露出を少なくすることが大事です。ディートなどの有効成分を含む虫除け剤の使用も有効です。屋外活動後は速やかに入浴し、マダニを持ち込まないようにしましょう。吸血中のマダニを見つけた場合は、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させたりしてしまうおそれがありますので、そのまま医療機関（皮膚科など）を受診して適切な処置を受けてください。

▶詳しくはこちらもご確認ください
ダニ媒介感染症に注意！＜日本紅斑熱、SFTS＞(2026 年 5 月)／京都府感染症情報センター
マダニ対策、今できること｜国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト